

二科・三科参考手本（半切2分の1サイズ用）

▶二科・三科は、半切2分の1サイズまたは半切のどちらかで出品して下さい。課題は自由ですが、半切2分の1サイズを選択した場合、下掲の参考手本によりご出品いただくこともできます。

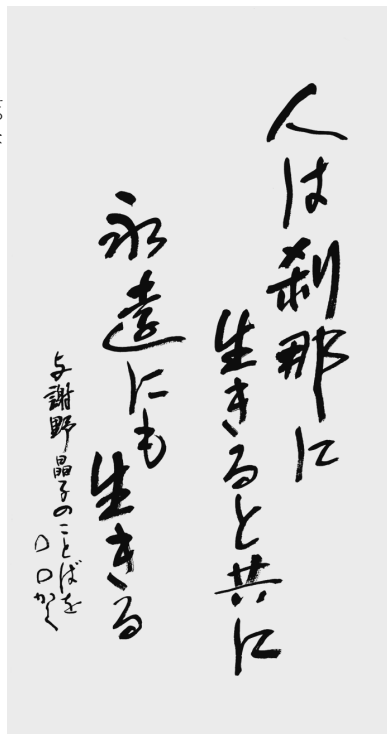
幸福は幻影であって苦惱こそ現実である



澤 幸 寿 書

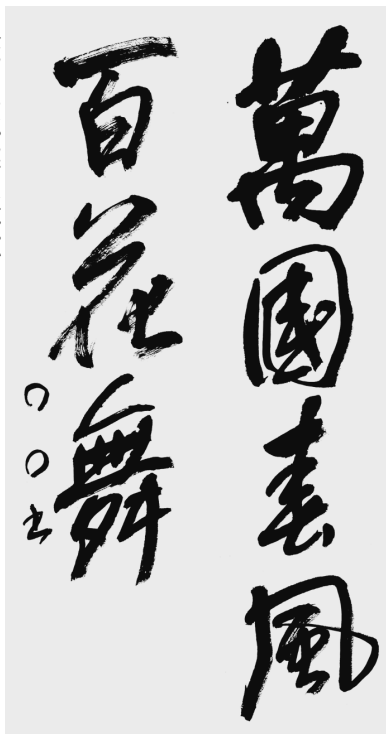
人は刹那に生きると共に永遠にも生きる

（与謝野晶子）

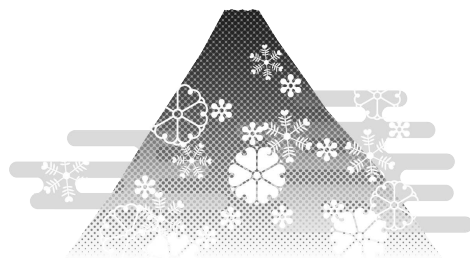


清 水 翠 芳 書

萬國春風百花舞



清 水 翠 芳 書



一管の笛にもむすぶかざりかな（飯田蛇笏）



田 中 貴 光 書

谷深くうぐひす鳴けり夕霞（水原秋桜子）

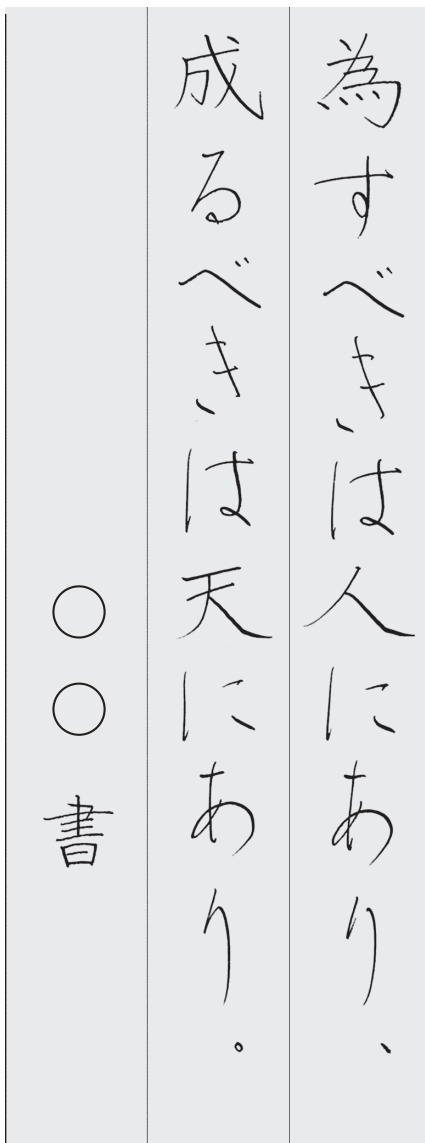


築 瀬 舟 香 書

憲照先生の手本ア・ラ・カルト (25)
(à la carte)

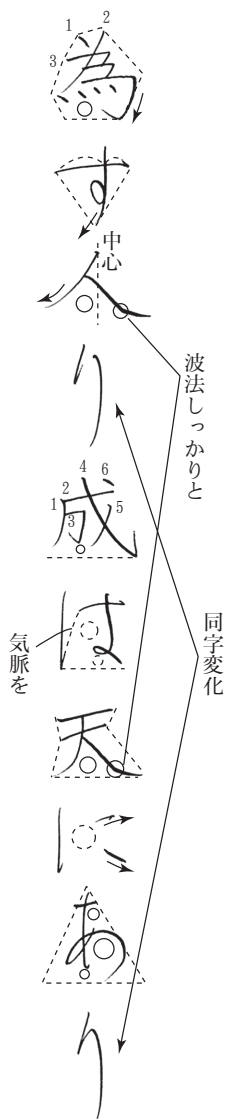
締切り 一月二十四日 (必着)

昭和48年5月



つけペン・墨汁使用

〔解説〕



◎ 本会は、今年で創立六十八周年を迎えます。まだまだ世の中は、新型コロナウイルス禍の影響で、世界中が不安の中にいます。しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。

◎ 今年の短期特別課題は、昨年同様『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。

お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。同一課題を楷・行・草の順で繰り返し、掲載していく予定です。

◎ 多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。

◎ 創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

★ 為すべきは… (書体Ⅱ楷書)

杉田玄白 (一七三三〜一八一七)

江戸時代の蘭学医

努力は、人がしないといけない事柄です。でも結果は、人の及ばないところ、すなわち天が決めます。そして結果は天が形成します。

ですから、結果を出そうと努力して、できる限りのことをした後なら結果を天に託して、後は待つしかないのです。

〔作品の出し方〕

▼ 今回も硬筆部だけに限ります。全員本会段位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。

▼ 用具は自由ですが、線美を追求のためには、つけペン・墨汁をお薦めします。

▼ 出品制限の対象とはなりません。

▼ 事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。

※ 不明な点は無記入でも結構です。

▼ 優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

▼ 月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様にお願いします。

一般部規定課題

締切り 1月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕

容赦勝利最神聖

強く
軽く
長めに
反る

▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

容赦は
勝利の最も神聖な
ものである

あら い りゅう ほう 書
新 井 龍 峰

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕

力よりも優方が効

効	優	力
き	し	より
め	さ	り
が	の	も
あ	方	
る	が	

ふる た ずい えん 書
古 田 瑞 苑

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

▼教範・書範⇦行書
▼師範⇦楷書

◆2月課題予告(行草または草書)
地球から
星に通ずる道は
平坦ではない

★容赦は：(書体⇦行書)
シルレル(一七五九〜一八〇五)
ドイツの詩人
戦いに勝った時、あくまで敵を屈服
せしめて勝利を誇るべきであるか、あ
るいは敗者を許して再起の道を講じて
やるべきであるか。
前者は動物的行動であって、後者こ
そ人間的行動である。

★力より：(書体⇦楷書)
ラ・フォンテーヌ(一六二〇〜一六九五)
フランスの作家
人を教える時、人に注意する時、あ
るいは人と争う時、力をもってするの
も一つの方法であるが、力には向こう
も力で反発するから効きめは薄い。優
しさをもってすれば、かえって容易に
受け入れられるものである。

◆2月課題予告(行書)
動きのあるところ
おのずから
道は開ける

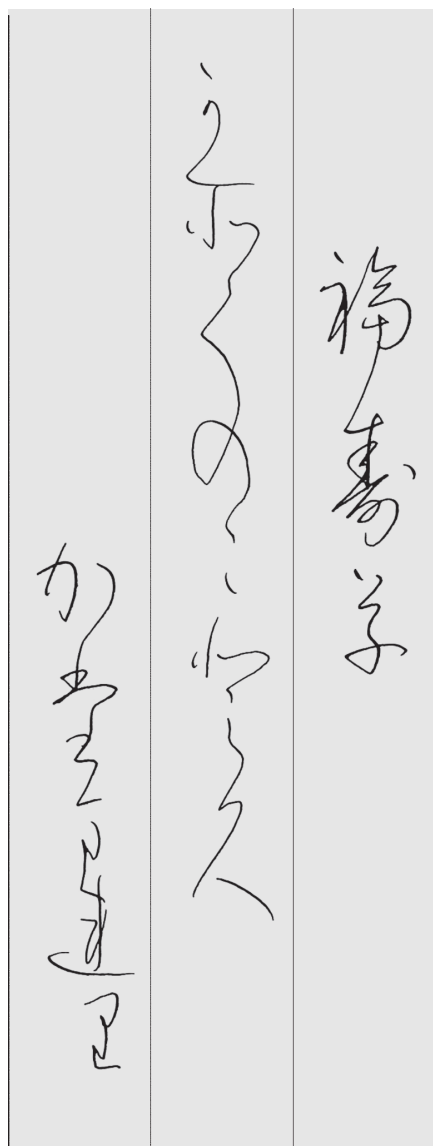
一般部かな課題

締切り 1月24日(必着)

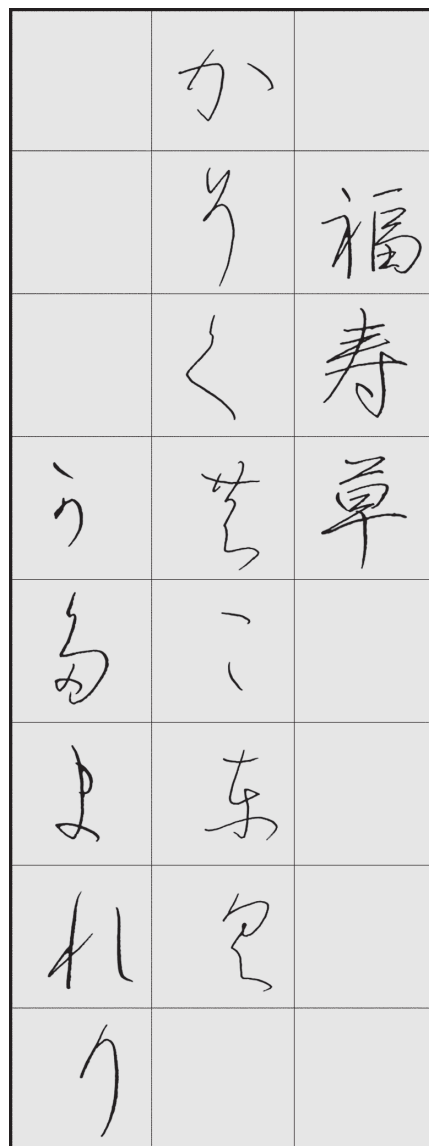
準初段から六段まで

新入から1級まで

福寿草家族のごとくかたまれり



福寿草家族のごとくかたまれり



■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

た なか き こう
田 中 貴 光 書

▷用具=自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

た なか き こう
田 中 貴 光 書

▷用具=自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

福寿草ふくじゅそう家族のごとくかたまり

(福田蓼汀)

〔句解〕正月の来るのを待っていたように、咲き始めた福寿草。一つ大きいのは父、それに寄り添うのは母、その周りに二つ三つ顔を見せているつばみ蕾たちは子供。やさしく和やかにかたまり合つて、それはまるで仲のよい家族のようだ。

〔鑑賞〕正月の飾りものを写生した句。小鉢^{こはち}に寄せ植えた福寿草を見て、〈家族のごとく〉と見るのは、作者の内に温かく和やかな心があったことである。

〔古筆参考〕

曾 そ
𠂇
𠂇
𠂇
𠂇

東と
东
东
东
东

登と
あ
い
い
う

堂
考
書
之
考

連れ
を
ま
し
し

【解説】横画の多い漢字が並びましたが、少しずつ方向、長さなどを変えて書いて下さい。

◆2月課題予告

夢に舞ふ能美しや冬籠ふゆごもり

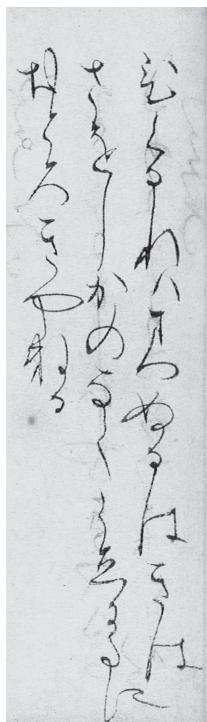
(松本たかし)

締切り 一月二十四日（必着）

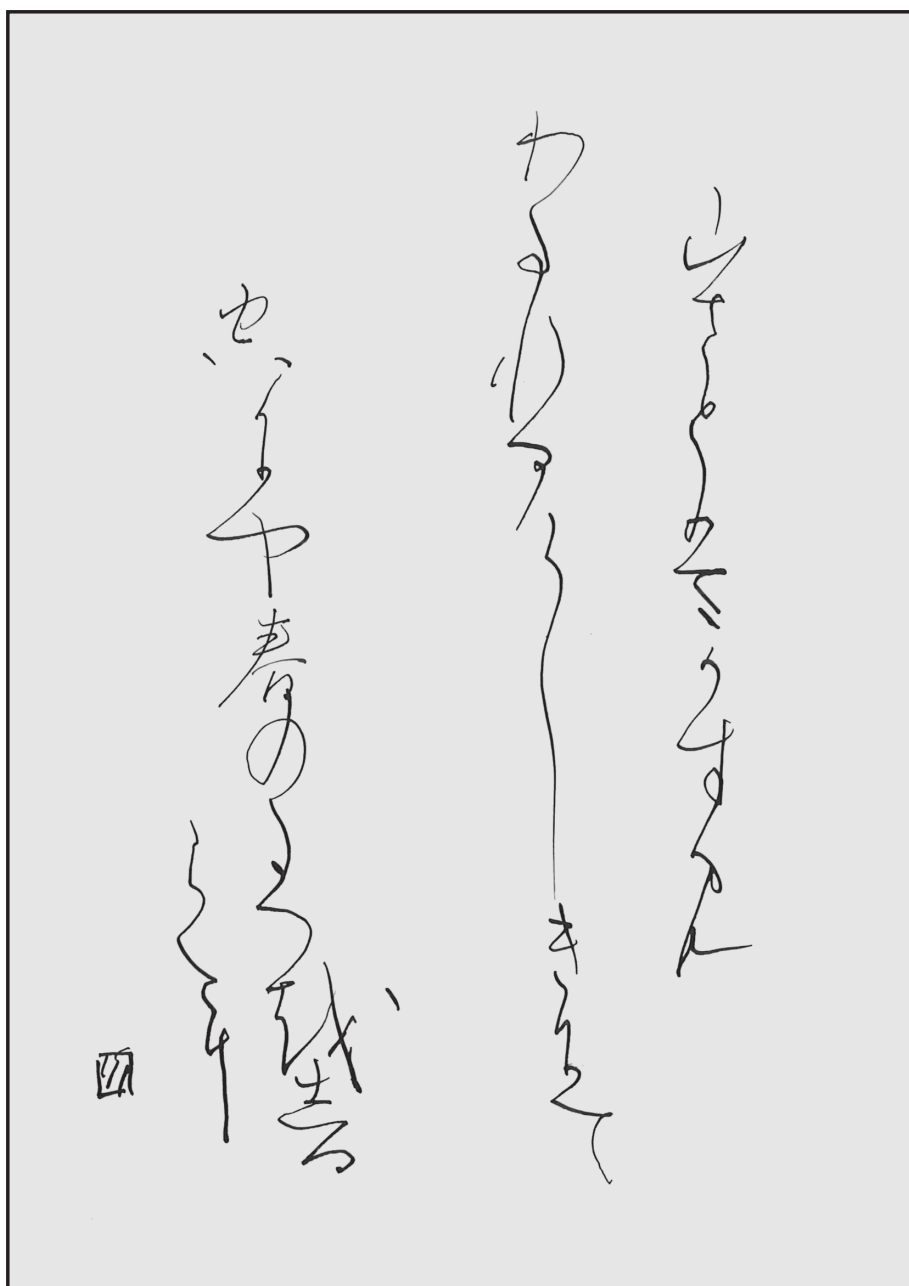
築瀬舟香書

〔古筆参考〕

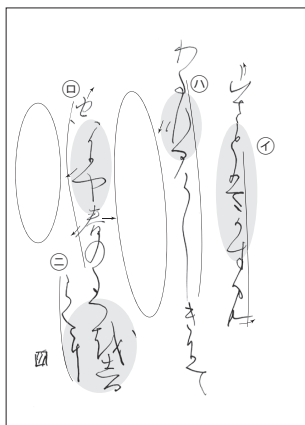
なかつかさしゅう
中務集



飛
ひくるればまづぬるはぎは
さをしかのなくこゑにだに
おどろきやす_数する



〔解説〕



・ ①と②、③と④、⑤と⑥、それぞれ
呼应。

・ ○余白大切。

・ 指向性大切。

・ 行の密の部分の動き大切。

◆ 2月課題予告

鶯の声ぞ霞にもれてくる
人めともしき春の山里

明けてましてお目出度う御座居ます。
本年も引き続き担当を依頼され、歌
も西行の「山家集」より、古筆も西行
の「中務集」を参考に皆様とご一緒に
学んで参りたいと存じます。
よろしくお願ひ申し上げます。

さと盤可_見多_介多_介
山里は霞みわたれるけしきにて
そら_空にや春_多の立つ_{越志}を知るらん_牟

〔歌意〕 山里は空が一面に霞みわたっ
たその情景で、暦によらなくても春が
立ったことを知るだろう。

〔出典〕 新潮日本古典集成

締切り 1 月 24 日(必着)

鏡開きも終わり、仕事にも新たな
気持ちでご精励されていること、
存じます。我が家の近くの土手の
なぞえに、早くも萌え出している
なずなを見つけました。週末には
七草がゆでも作ろうかしら。

鏡開きも終わり、仕事にも新たな
気持ちでご精励されていること、
存じます。我が家の近くの土手の
なぞえに、早くも萌え出している
なずなを見つけました。週末には
七草がゆでも作ろうかしら。

※手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。
(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

富士山は、今は噴煙を見ないが、
「竹取物語」に煙の説話が伝わる。

島根県雲南市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 一月二十四日（必着） 半切（一二六cm×三五cm）

荻田蒼仙書

玉燭星雲、三殿曉珠
柏る露九天、玉養雲

玉燭星雲三殿曉

珠杓雨露九天春

趙甌北

〔大意〕四時の氣候を調和する星雲は三殿の夜明けにあり、北斗の第五より第七に至る星の露は満空の春をなしている。

初出品の方へ

支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

いまだ正月気分が抜けやらずに
昼間からコタツでうたゝ寝など
してゐすが今年こそ一念発起
師範試験にチャレンジします
山中道夫

書 香 梅 藤 伊

半紙（334mm×240mm）

〔条幅解説〕

今年も線の追求を目指します。書は線です。線は無限です。勁い線、しなやかで弾力のある線、艶っぽい線……そしてその線に人生そのものが表れるとすれば、未熟な私は、自己を磨き高める努力を疎かにしてはならないと思っています。

いまだ正月気分が抜けやらずに
昼間からコタツでうたゝ寝など
してゐすが今年こそ一念発起
師範試験にチャレンジします

（ご自分の氏名）

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績（天位～5等）は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで(楷書)

澤 幸
書

天正開
景祚

てんまさけいそをひらく
天正開景祚

〔大意〕天^{まさ}帝が正に大いなる幸福を開いた。

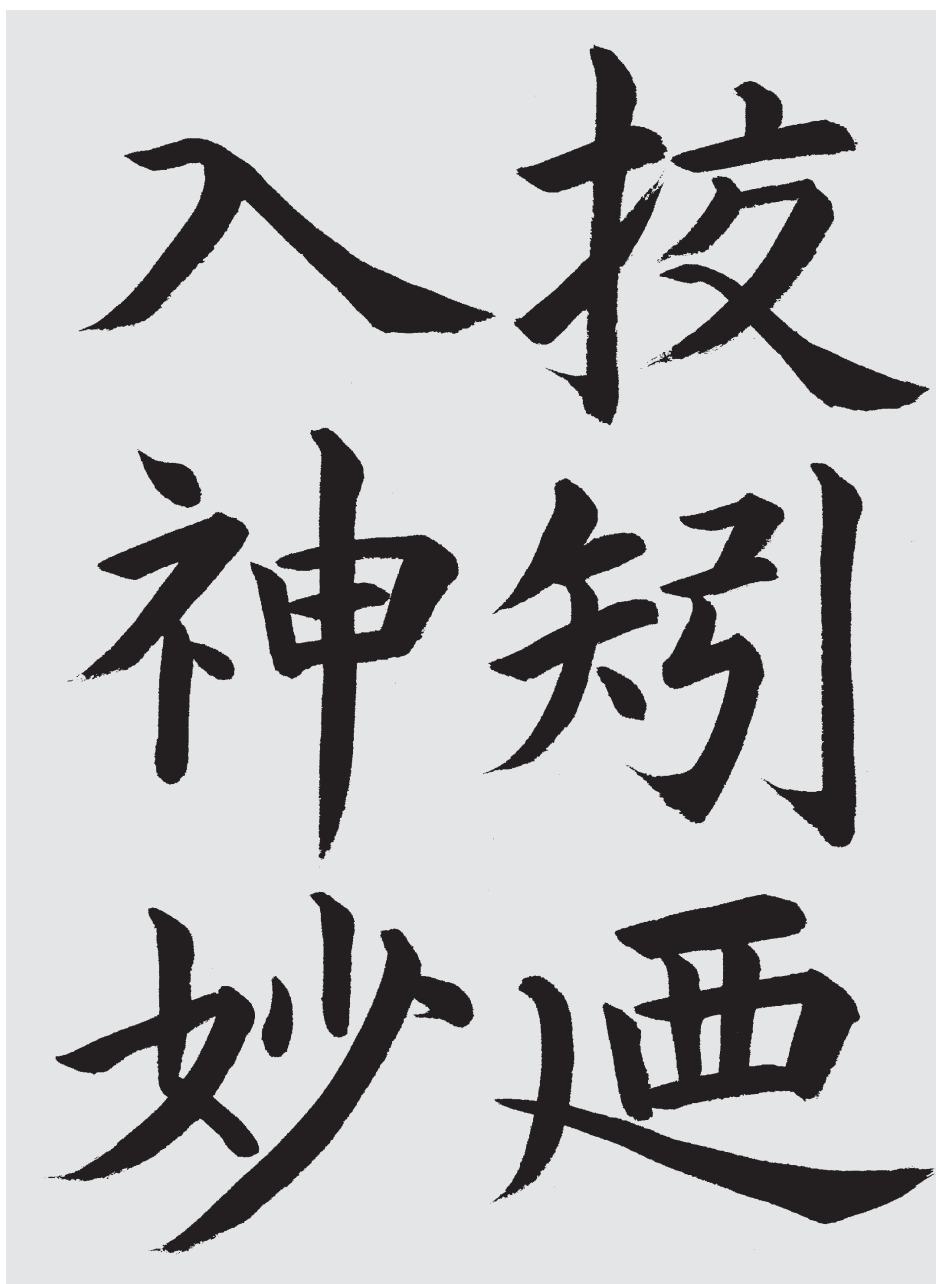
〔解説〕

天 正 開 景 祚

◆2月課題予告(行書)

梅花萬
里外

準初段から師範まで



須田一葉臨

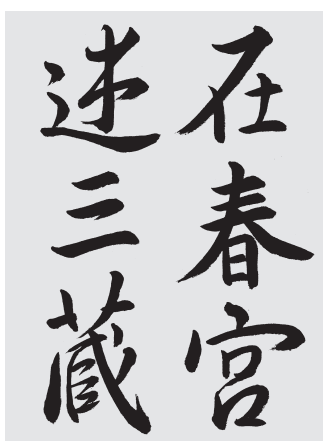
校
矧
廻
入
神
妙



〔出典〕孔子廟堂碑（六二六～六三三）
〔筆者〕虞世南（五五八～六三八）
〔読み〕（字）校に（資る。）矧や廻
ち入神の妙（義）
〔解説〕

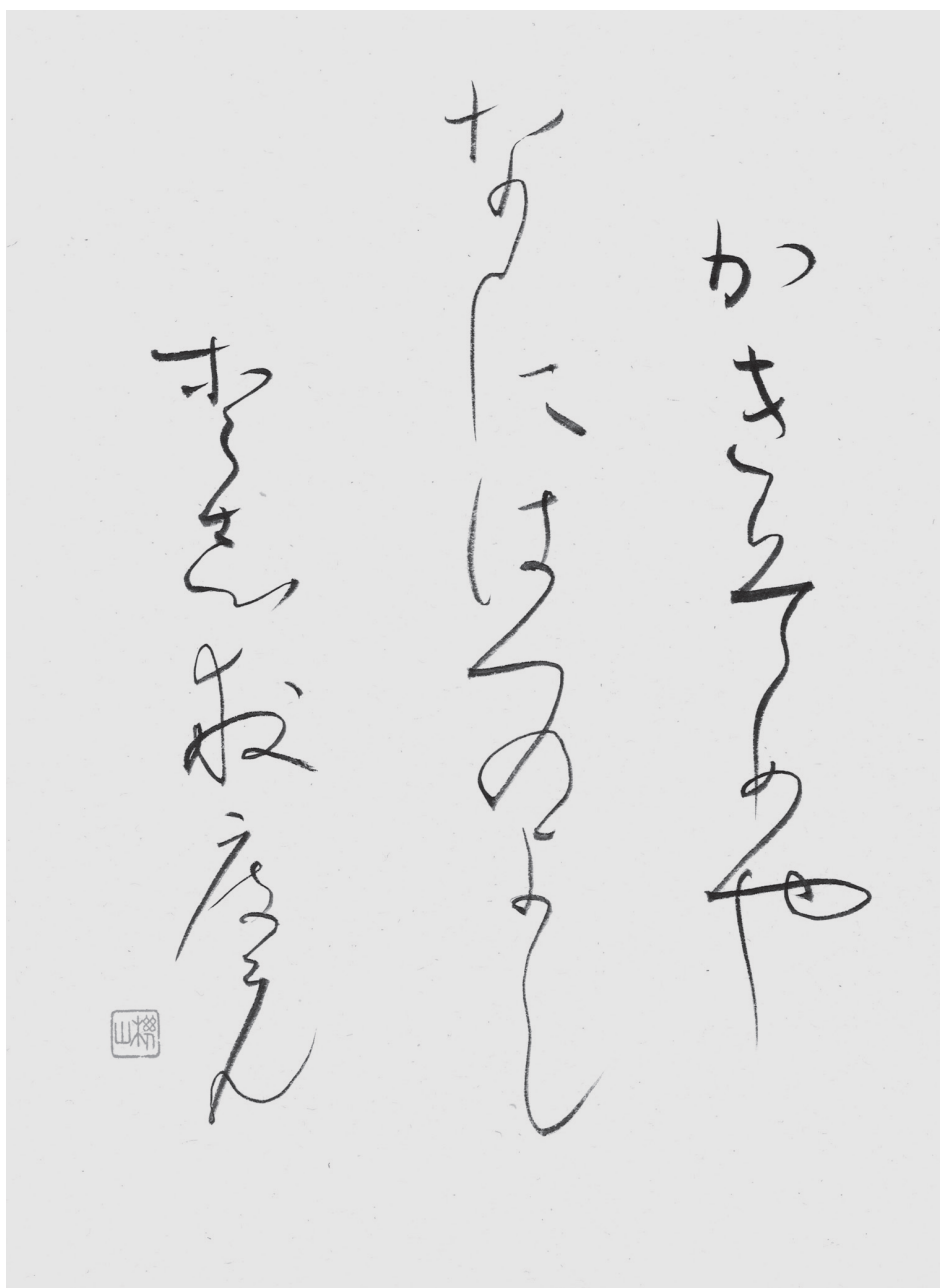


◆2月課題予告
※文献によって字体が異なる場合があります。



新入から1級まで

浅井機山先生書



かきそめ
書初や難波津のよしあしくとも

愛志求度无
内藤鳴雪

〔句意〕

上手下手にかかわらず書初めをすることだ、の意。「難波津」は手習いの初めに学ぶ歌「難波津にさくやこの花」の歌とことわざがかけられている。

◆2月課題予告

陽炎の落ちつきかねて草の上

〔解説〕

まず全体を見ると、行頭は2行目で紙面の上の方から、3行目で一番下げて書いています。行尾を見てみると、2行目は1行目よりもっと下げ、3行目は2行目よりほんの少し上げています。それに、行尾の字は「や」「し」「无」とものにびやかです。

それでは、1行1行見ていきましょう。

「かきそめや」

「か」は横広の字で書き始め、「き」は縦長に書き、連綿線で「そ」につなぎ、角（転折）でしっかり当たって次へ、次へと書き進めます。なお、字の途中の角では紙面から筆を離してもいい。離して又つないで書いていけばいい。1字を終わりで書かなくてもいい。要は、連綿は角から角まで進めることで、自然の流れが作られます。「そ」から「め」は太いままの連綿線でつながります。「め」がくると回ってから直線の連綿線で「や」へつなぎ、「や」でしっかり当たったら横線は力強くユックリそしてハヤク、曲線に入ってユックリ回って点を打ちます。長い縦線はユックリそしてハヤク空中へ抜いていきます。

「なにはつのよし」

連綿線の方角と回り方に注視します。

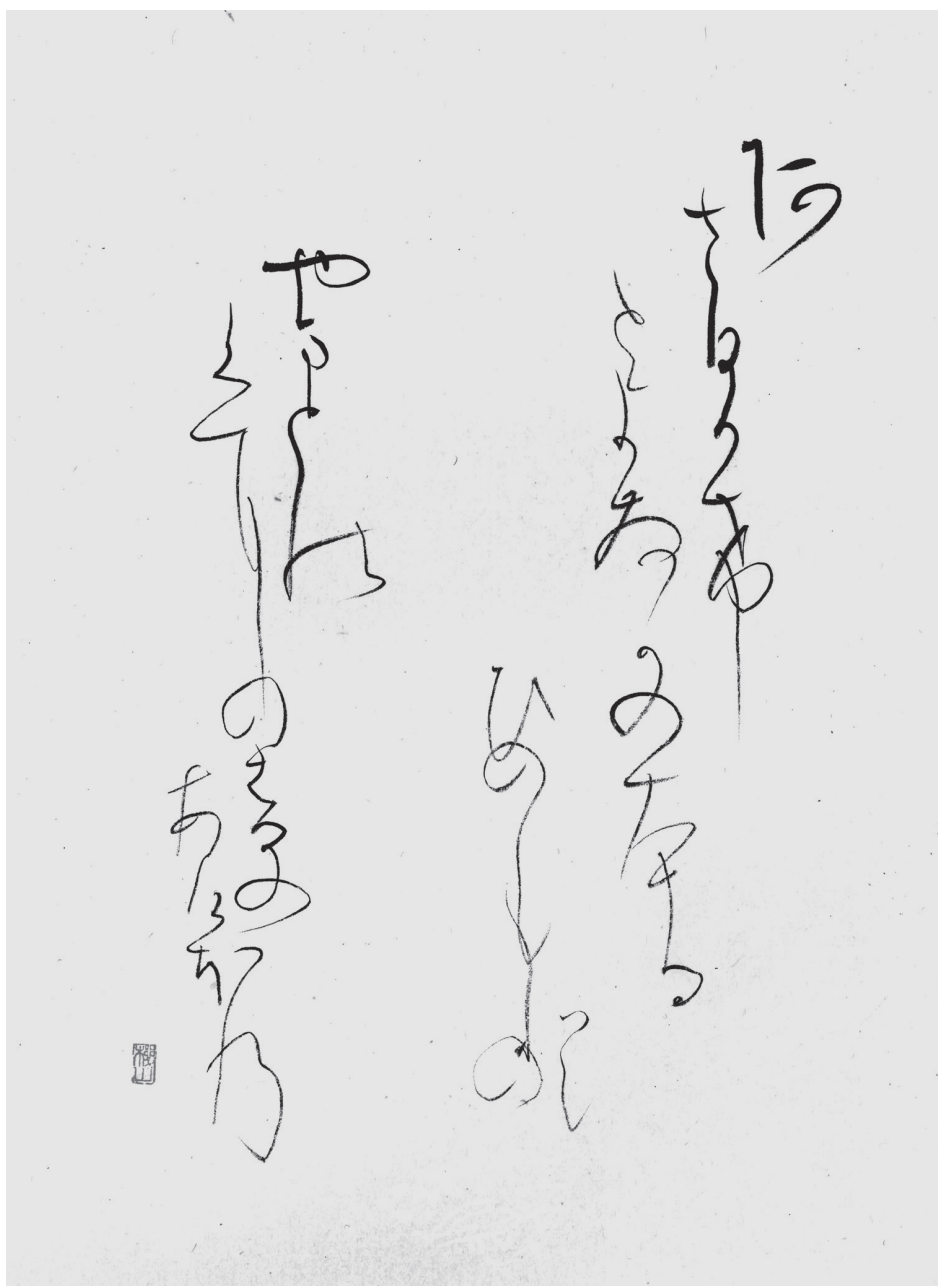
「愛志求度无」

変体仮名の字形を覚えます。

「无（ん）」は「も」とも読みます。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



朝^阿日^可か^希げとよ^散さ^可かの^本ぼる^ひ日^もの^登本の
や^万ま^能との^耳国の^者春^るの^介あ^本け^乃ぼ^のの

佐久良東雄

〔歌意〕

朝日がかがやいてのぼる日本の、大和の国の春の明け方よ。

◆2月課題予告

今さらに春を忘るる花もあらし
やすく待ちつつ今日も暮さむ

〔解説〕

まず全体を見てみましょう。

「阿」の墨量が、次第になくなって、消えていくようなところまで書きます。いわゆる〈潤渴の変化〉している姿をとらえて下さい。「や」の墨継ぎも、行が移るにしたがってかすれていきます。

かな書は、この潤渴の変化が美しいのです。特に、かすれてから息長く続いていく線は、古筆を見ると分かるように、心ときめくほど美しいのです。それでは、1行1行見ていきます。

〔阿〕

勢いよく、さあ書くぞ、という意気込みです。最後は少し長めになりましたが、空中に舞い上がっていくようにします。

〔さ日可希〕

「さ」を「阿」に寄り添うようにし、連綿線と「日」の第1画は力強く「阿」のはらいを受けて。「希」の最後はのびやかに下の余白へ向かいます。

〔とよ散可の本〕

「散」は幅広いので、右行とぶつからない位置におさめます。

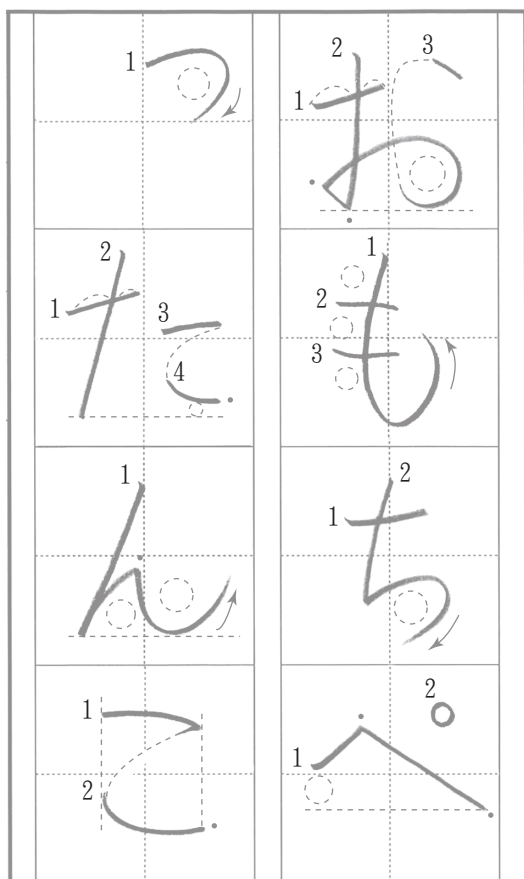
〔ひのも登の〕

「ひの」と「登の」は、〈重ね書き〉しています。

〔や万と能〕「く耳の者の」の「あ介本乃」

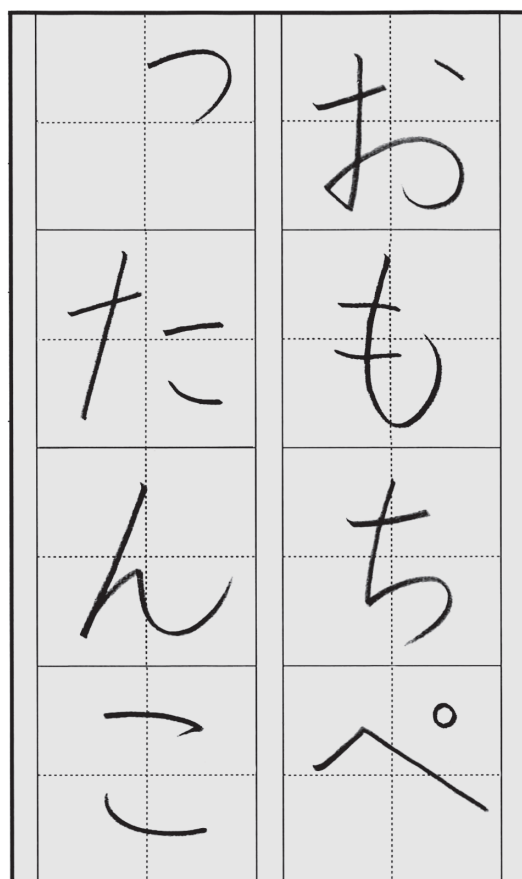
この3行、右の塊より行間を狭くしています。右の塊全体を受けて〈行間の広狭の変化〉を習います。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



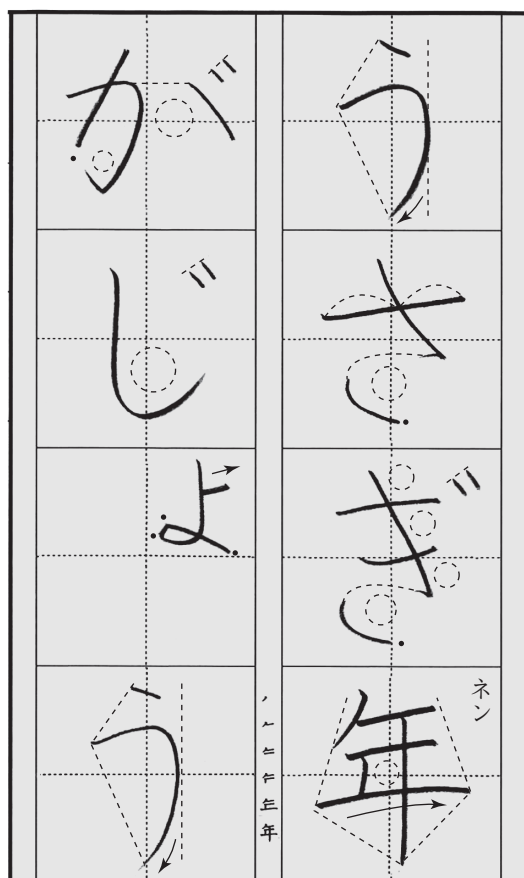
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



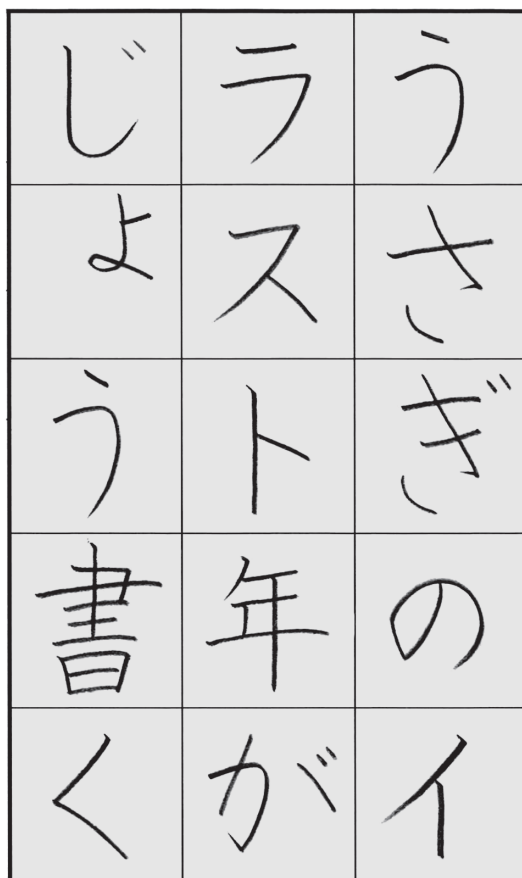
よ
う
年

幼年～小三年まで 三宅容玉書



新入～1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

る	朝 あさ
は	日 ひ
つ	の
空 そら	ぼ

新入〜1級

見	る	朝
上	は	日
げ	つ	が
ま	空	の
す	を	ぼ

小二年
準初段以上

を	新 あた
平 へい	し
和 わ	い
に	年 とし

新入〜1級

に	明	新
と	る	し
ね	く	い
が	平	年
う	和	を

小三年
準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

ナ オ オ オ 村 村	むら	二 千 雨 雪 雪	ゆき
の		チ 和 積 積	つ
正	シヨウ	も	
用	ガツ	る	

新入〜1級

い	り	松
村	積	に
の	も	雪
正	る	が
月	寒	ふ

小四年

準初段以上

解説(よく見て習いましょう)

ノ ハ ム 今 今 全	ゼン	こころ
ツカ	リヨク	タイ
一 ナ 大 太	ゆめ	ヨウ
ハ ム 田 夢 夢	ジツ	も(ち)

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

夢	持	心
の	ち	に
実	全	太
現	力	陽
へ	で	を

小四年以上
岡嶋桂川書

〈用具〉自由(黒色に限る)

ヘイ 一十ヤサ世	セ 世
カイ 四田尹界界	ジン 人
ミ 山ヤ界類類	ルイ 類

解説(よく見て習いましょう)

せ	平	世
る	和	界
未	に	人
来	暮	類
を	ら	が

小六年

(全員)

持	動	忍
っ	の	耐
た	信	強
人	念	く
に	を	不

中二・三年

(行書)

が	自	輝
芽	立	く
生	の	朝
え	精	日
る	神	に

中一年

(楷書)

▼小三年以下の課題 かん の しゅん こう 神 野 春 紅 書

書 ^か	み	力 ^{ちから}	元 ^{げん}	大 ^{おお}
き	ん	強 ^{つよ}	気 ^き	き
ぞ	な	い	よ	な
め	と	字 ^じ	く	紙 ^{かみ}
した		で		に



◎お手本はえんぴつ使用

- ◇作品の出し方
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
 - 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
 - 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
 - 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
 - 一、成績は評価により毎月変わります。
 - 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



しめきり 1月24日（必着）

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 なる せ ゆう か 成 瀬 有 華 書

ス	一 ^{いち}	決 ^{けつ}	書 ^か	今 ^こ
タ	年 ^{ねん}	意 ^い	き	年 ^{とし}
ー	を	も	初 ^ぞ	の
ト		新 ^{あら}	め	目 ^{めく}
す		た	し	標 ^{ひょう}
る		に		を



◎お手本はつけペン使用



小 二 年

小 一 年

よ う 年

は
つ
空

小
二

さか い とも こ
酒 井 智 仔 書

う
サ
ザ
ギ

小
一

さか い とも こ
酒 井 智 仔 書

も
ち

さい
さい

さか い とも こ
酒 井 智 仔 書

注…コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1
(68cm × 17.5cm)に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。

小 五 年

小 四 年

小 三 年

心
小五
に
太
陽

みず の へき ゆう
水 野 碧 友 書

雪
小四
の
正
月

みず の へき ゆう
水 野 碧 友 書

新
小三
し
い
年

みず の へき ゆう
水 野 碧 友 書

注：コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆ 1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1
(68cm × 17.5cm)に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。

中二・三年

中 一 年

小 六 年

忍 耐 強 い 人

中二・三

自 立 の 精 神

中一

世 界 平 和

小六

たま き しょう か
玉 樹 小 華 書

たま き しょう か
玉 樹 小 華 書

たま き しょう か
玉 樹 小 華 書

注…コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆ 1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1
(68cm × 17.5cm) に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。